

特定非営利活動法人 印旛沼広域環境研究会
 〒285-0837 佐倉市王子台3-2-2
 TEL:043-462-2123 FAX:043-462-4323
 E-mail:npo-inba@ar.wakwak.com

(株)大和 内
 発行人 太田 勲
 印刷所 (株)テーオー印刷

2015年3月号

No.26

第12回印旛沼流域環境体験フェア
 [10月25・26日開催]

今回は市民企画部会で印旛沼関係の団体が話し合い、その結果を検討委員会に反映させるという体制になりました。太田理事長、事務局長が参加し当日を迎えました。チラシのデザインやタイムスケジュールは勿論ですが、苦勞したのはステージ出演者のお願いでした。

市民主導型ということで、会場のテントなどハード面は県が準備しましたが、その他は一斎予算がありませんでした。出演して下さる方は、全て手弁当ですし、2日目の高校生のバンドグループについては野外での演奏となるとアンプがありません。無いものは知恵と善意にすがり、結果は今までにない素晴らしいステージになりました。

当会は7月30日開催の「屋形船で印旛沼体験」の時に作ってもらった子供たちの俳句の表彰式と、毎年好評のドジョウつかみ、地元岡野川魚店さんの佃煮の販売で参加しました。

俳句の優秀賞5人は家族で来場されました。表彰状と、副賞はB G無洗米5kgでした。



子供たちの俳句の表彰式

2日間の来場者数は、主催の千葉県発表で4000人でした。数日前に降った雨のため会場のはけが悪く、駐車場・テントの配置・ステージの

場所など、当日朝まで変更がありました。数々の課題が残りましたが、来年度に向けては既に2月2日に市民企画部会を開催しましたし、更に充実した環境フェアになることと思います。



ドジョウつかみを楽しむ子供たち

笠井記念「舟戸水草園」と
 かつば公園日記

【平成26年】

- ◎ 9月14日 花壇の畝が出来上がりました。花壇の幅：2m×100m（面積200㎡）
- ◎ 10月12日 菜の花の種蒔きをしました。



菜の花の種蒔き

- ◎ 10月16日 臼井小3年生が水草園に環境学習として訪れました。（県立中央博物館 林紀男先生の出前講座として）



臼井小3年生の水草園観察

- ◎ 10月30日 花壇の周りにパンジーとビオラのポット苗（佐倉市より無償配布）144株を植え付けました。



植え付け終わったポット苗

- ◎ 11月16日《佐倉市役所職員研修受入れ》採用2・3年目の職員5名と花壇の草取り、水草園観察。当会の抱える問題や活動の意義など、青空の下で意見交換をしました。（参加者 15名）



市役所職員との花壇の手入れ

- ◎ 11月21日 八街小4年生が水草園に環境学習として訪れました。（県水質保全課主催）
- ◎ 12月14日 草刈り作業。終了後吉水氏宅で忘年会。仮称「印旛かっぱの会」平成26年の作業を締めくくりました。

【平成27年】

- ◎ 1月15日 市役所職員研修受入れに関する報告会が市役所で開催され、5人の参加者がパワーポイントを使い、次のように心強い感

想を頂きました。

◇ 感想：「行政として・市民として」

訪問当日は花壇の手入れを手伝わせていただいたが、外来種による植物（水草を含む）生育障害が起こっており、その保全には大変な労力が費やされていると感じた。印旛沼の水質改善は急務であり、行政としても各種団体等と連携し、対応していく必要があることを強く感じた。また、一市民として環境保全活動へ参加していく必要があると思った。

- ◎ 3月29日 佐倉健康マラソン大会のコースとなる花壇、菜の花を愛でながらマラソンの応援をする予定です。



講演 「印旛沼にトキを呼ぼう！」

～何故トキか～

NPOいんば 理事長 太田 勲



対象 佐倉東高等学校 調理国際課（一年生）

平成26年9月26日（金）

- 一 「トキ」とは 昔・今・未来
- 二 印旛沼の汚れとその農業を含めた流域環境
 - 1 汚れの原因
 - 2 農業の近代化
- 三 トキの誘致と冬季湛水
 - 1 冬季湛水とは
 - 2 環境にやさしい印旛沼の実現

【受講生の感想文】

印旛沼が全国ワーストワンだと聞いて驚いた。普段、私が飲んでいる水はほとんど印旛沼からきている。千葉県の人口の四分の一が印旛沼の水を飲んでいることも初めて知った。

今の印旛沼はアオコが大量に発生していて、危険な状態になっている。千葉県民とすれば、今までこんなに汚い水を浄化して飲んでいただけに少しショックを受けた。また、水を浄化するためにかかっている費用は、私の住んでいる千葉市民が多く負担していることがわかった。

今の状態を改善するには、みんなの改善意識が必要になる。印旛沼を汚している農薬や化学肥料を使わずに有機栽培にするなど、農業をやっている人は改善していかなければならない。田んぼに生物が生きられる環境を作り出すことが大切だ。

農業が近代化してきて便利になった点もあるが、自然を保護していくことも重要なことである。

印旛沼は、今はトキを呼べる状態ではないけれ

田理事長他26名が参加致しました。マイクロバスはぎゅうぎゅう詰め、満員御礼の大盛況の出発でした。バスには「独立行政法人水資源機構・千葉用水総合管理所」子安幸雄所長が同乗してください、詳しく説明をいただくことが出来ました。

一行は一路印かっぱ公園の脇、舟戸大橋を通り、水田地帯を抜け、将監川を見ながら安食に入り、利根川と印旛沼を結ぶ長門川の水門、印旛機場へと到着しました。

到着後、子安所長から印旛機場の役割、千葉県全体の総合的な水の管理・利用について説明がありました。印旛機場は酒直水門から印旛沼の洪水を排水する際に長門川の水位を調整する施設であり、同施設は常に印旛沼の水位を監視していること。また、流入水を予想するため気象情報を収集し、日々ポンプ設備の点検をしている等、所長より説明を受けました。その後機場内ポンプ等施設の見学をしました。農業、水道、工業、洪水排水等、業務は多岐に亘っていることが理解でき、当会の水質浄化啓蒙活動のため有意義な内容でした。



機場内での子安所長の説明

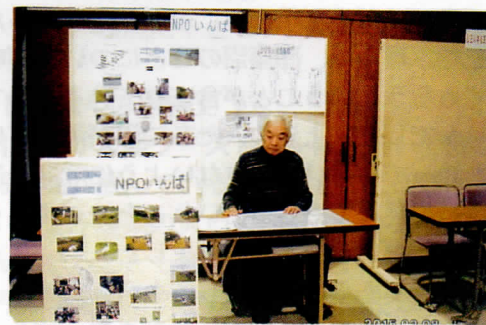
次いで昼食は印旛機場すぐ近く、金田屋でうな重を食し、デザートとして栄町名物の黒豆カステラを食しました。ひんやりとしてとても美味でした。お昼を満喫した後、再びバスに乗り込み一行は利根川沿いを上り手賀沼に向かいました。手賀沼公園の船着き場に到着。手賀沼周辺23団で構成する「美しい手賀沼を愛する市民の連合会」通称「美手連」の役員の皆様が迎えてくださり、手賀沼の浄化、美化運動についてお話をいただき、次いで遊覧船に乗り、「我孫子野鳥を守る会」会長間野吉幸さんから説明を受けながら、野鳥の遊ぶ姿や手賀沼の風景を楽しみながら回遊しました。船で手賀沼親水広場に移動後、全員で写真撮影。その後、「鳥の博物館・水の館」を見学。館内の会議室にて、「美手連」の役員の方々との意見交換をさせていただきました。美手連との意見交換会では、3.11以来放射能レベルが高く漁業が衰退していること。また蓮の増殖による群生拡大の問題。そして、印旛沼と同じくナガエツルノゲ

イトウが繁殖しているが、その駆除実験を進めており、行政（我孫子市）と企業との連携を図り、取り組んでいる手腕に、学ぶところが大きかった。

手賀沼由来の生態系を守る活動についても大いに参考になりました。帰路は雨が強まり、日が暮れて薄暗くなる中、予定より1時間遅れて臼井駅に到着。全員何事もなく、無事、研修旅行を終えることができました。

佐倉市市民協働事業助成金報告会

平成27年2月8日（日）佐倉中央公民館3年目継続事業として採択された「屋形船で印旛沼体験（7月30日実施）」について、街づくりフォーラムの講演会の前に、各団体の報告会として展示と発表会が開催されました。塚本副理事長と事務局長が参加しました。7月30日開催の内容についてはNPOいんばニュース25号をご覧ください。CATV296の取材で、この活動はこれからどうしたらいいかと聞かれました。『目的は親子が印旛沼の匂いや動植物に触れるという現場での体験学習を重視しているので、毎年小学生が経験できるように学校のカリキュラムに取り組んでもらいたい』との希望を話しました。佐倉市内の子供達が全員印旛沼の屋形船に乗り、印旛沼を大切に思う心を持ってくれるには「継続こそ力なり」ではないでしょうか。（事務局長 園原）



塚本副理事長の報告

編集後記

梅の花も見ごろを過ぎ、そろそろ桜の開花など間近に春本番を迎える季節となりました。

今号では岩井功氏から、昨年行った研修旅行の詳しい内容の寄稿を頂き、お蔭さまで誌面に趣をもたせることができました。次号以降もこのように皆様から何かご寄稿を頂き、誌面でご紹介させていただきたいと思えます。俳句、川柳、旅行記など何でも結構です。皆様の温かいご支援とご協力を切にお願いいたします。（編集部）